土岐善麿短歌賞

連作の部

【佳作】

「死んでから飲む水」

平野 慎悟

死んでから飲む水の味思い出す やり残したこと全部尿になる

老いぼれのSong 若くないだけマシですが余分な翼が生えてる右翼

例えばフランスのからだとニッポンのからだはどちらも小さくはねる

裸になるタイミングがあるヒト、一つ飛ばしてタイミングがないヒト

だるまに約分が似合うと伝える「俺は少年か」乳首吸われた

山下は友達がいる山下こと小田倉の妹の恋人

散り方を知っているオノマトペは針でしぼんだり勝手にしぼんだり

泣きたい夜 さぞかしい機微 起きす朝 さぞかしくある友人の姿

香川家×香川県(かけられないよ)香川県(かけてもいいかい)香川の顔に

好きな人の裸は別に見たくないです。好きじゃない人のもそうです。

たいきばんせよ！がモットーのメガネ屋だけど都電よりも速いよ

駅の朝、そりゃ転ばずにはいられません。俺は大丈夫、先に行ってくれ。

トイレットペーパーの芯死んだ死んだ芯だ芯による死、事実だ。

溺れたり(チーター!)のけぞったり(フェルマー!) 反転したりして恋をする

大臣との下校は楽しい虹色の大臣は死んだから今は普通の大臣

ウミネコのパンティーをよく見てごらん四角い顔になっていくでしょ

葬式と暮らす若者の横で徐々に生き返る父と母と父

光が横切るとき止まる(今日ではある)お、おす(照れる)

仮に会いたいとしてルールは水曜にエナジーを、短かい水曜になるんだ。今から世界が

死ぬんだ。